

「第33回 連携室の連携」は7月30日(土曜日)西鉄イン福岡大ホールで開催しました。参加者は271名でした。開会にあたって瀨野泰秀会長は「今回の診療報酬改定で明示されたように、私たち連携室にはより早期の支援態勢が求められています。本日も良き学び合いの場にしてください」と挨拶。施設活動報告は、①瀨田クリニック・鬼木章司氏、②泰平病院・西重幸氏、③福岡徳洲会病院・荒木伴宏氏が、それぞれの施設概要、地域連携への取り組みなどを発表しました。

シンポジウム「非癌患者終末期の連携～満足のいく終末期を支えるために連携室ができること～」には、羽根田俊子座長(福岡徳洲会病院・訪問看護認定看護師)のもと4人のシンポジストが登壇しました。済生会福岡総合病院の中嶋謙太氏は急性期病院の立場から、心不全患者の再入院を予防し、QOLの向上をサポートするための院内チームや、地域医療連携の成果を報告。在宅復帰機能強化型病棟を有する粕屋南病院の後藤竜馬氏は、多職種による事前の家屋調査を含めた退院調整や、倫理委員会を積極的に開催して院内の終末期患者への意思統一を図っている取り組みを報告しました。

在宅の立場から訪問看護ステーションそよかぜ・渡辺美紀氏は、実際に関わった高齢者終末期、難病、認知症それぞれの事例を紹介しました。さくらのクリニックの鷲坂英輝院長は、非癌患者終末期の特徴として、①予後の推定が困難、②胃瘻などの延命措置を決めるのは誰か、③終着駅がみえない家族の期待と不安と指摘。また、高齢者施設で看取ったプロセスを丹念に振り返った多職種による事例検討討会の資料を示しながら、退院前カンファレンスでは予後や予測される臨床経過を家族などにストレートに告知しておくことの重要性などを提起しました。

今回のテーマは今後さらに顕在化が予想されるだけに、第2部の懇親会でもシンポジウムの「続き」が参加者間で繰り広げられていました。

## CONTENTS

- 1 会長挨拶
- 2 施設活動報告
- 3 シンポジウム
- 4 会計報告
- 5 新規参加施設紹介
- 6 その他

### 【会長挨拶】

会長 瀨野 泰秀氏  
(白十字病院 病院長)

### 【施設活動報告】

I 瀨田クリニック福岡  
鬼木 章司氏

II 泰平病院  
西 重幸氏

III 福岡徳洲会病院  
荒木 伴宏氏



### 【シンポジウム】

座長 羽根田 俊子氏  
(福岡徳洲会病院 訪問看護認定看護師)

#### I テーマ

「非癌患者終末期の連携」  
～満足のいく終末期を支えるために連携室ができること～

#### II シンポジスト

中嶋 謙太氏  
(済生会福岡総合病院)

後藤 竜馬氏  
(粕屋南病院)

渡辺 美紀氏

(訪問看護ステーション  
そよかぜ)



### 【平成27年度会計報告】

会計・塩塚 康子氏  
(九州中央病院)

監査・中島 克洋氏  
(済生会福岡総合病院)

### 【新規参加施設紹介】

副会長 宮崎 亮氏  
(木村病院)

四つ葉在宅クリニック  
在宅看護センター レイル  
介護複合施設 ツーハーツ

### 【第二部 懇親会】

ブロッソ  
(西鉄イン福岡 13階)

